

堺市指定管理者評価表

(評価対象期間 : 令和3年4月1日 から 令和4年3月31日 まで)

1 基本情報

(1) 公の施設の名称	
堺市民芸術文化ホール、堺市翁橋公園	
(2) 施設の設置目的	
市民文化の更なる向上を図るとともに、魅力及び活力のある地域社会の形成並びに都市魅力の創造及び発信に資するため	
(3) 所管部局	
文化観光局 文化部 文化課	
(4) 指定管理者名	
公益財団法人堺市文化振興財団	
(5) 指定期間	
平成28年10月1日から令和6年3月31日まで(7年6か月間) (平成28年10月1日から令和元年9月30日までは開館準備期間)	
(6) 主な事業	
<ul style="list-style-type: none">貸館業務をはじめとする施設の管理運営に関することホールなどを活用した文化振興事業を行うことレストランの管理運営に関すること堺市翁橋公園の維持管理、活用等に関すること避難誘導訓練等を行い、緊急時の対応に備えること駐車場の管理に関する業務	
(7) 施設分類	(8) 有料施設の有無
文化・教育施設	有 (利用料金制)
(9) 選定方法(公募・非公募の別)	
非公募	
(非公募の場合、その理由)	
堺市民芸術文化ホールが本市の文化施策における中核を担う施設として、市民の文化力の向上及び魅力と活力のある地域社会の形成や都市魅力を創造・発信していくためには、「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」やその指針を遵守し、公共ホールの使命を果たすことが重要である。当ホールの管理運営は、平成27年4月に施行した「自由都市堺文化芸術まちづくり条例」に基づく、文化振興によるまちづくりの観点や本市の文化振興施策との整合性を図る必要があり、当ホールが中枢文化施設として、長期の企画・準備期間を要する優れた舞台芸術や多彩な公演を開催することや専門人材の確保・育成の観点から長期的な視点が必要である。また、堺市翁橋公園は、緑豊かな憩いの場及び来館者を迎え入れるアプローチ空間として、ホールと一体的に整備し、管理運営することが、効率的・効果的な維持管理だけでなく、そのスペースを活用した様々なイベントを主体的に速やかに実施することができ、機能的で有意義な空間活用が可能となる。公益財団法人堺市文化振興財団は、本市の文化振興の推進母体として設立されて以来、市内文化団体や教育機関などと連携して普及啓発事業などを展開してきた実績があり、市と一体となって、公共ホールとしての使命を果たしつつ、実施する事業の質を担保できる。これらの点を踏まえ、採算性と公益性のバランスをとった運営が可能である公益財団法人堺市文化振興財団に随意指定するものである。	
(10) 主な利用者	(11) 市内における受益対象者数
市民	不特定多数
(12) 近隣の類似施設	
兵庫県立芸術文化センター	

2 管理運営状況

(1) 適正な管理運営の確保

ア 取組状況

平等利用、安全確保、個人情報の保護等	新型コロナウイルス対策ガイドラインを策定し、継続的な開館の維持・継続の指針を定め、利用者及びスタッフの安全安心を確保している。また、公益財団法人堺市文化振興財団個人情報保護規程を遵守した運用を行っている。
職員配置、人材育成、施設の維持管理等	専門性が高い各分野の主要ポストには優れた実績をもつ人材を登用。劇場、音楽堂等の活性化に関する法律の趣旨を踏まえ、中長期的な人材育成に努めている。また、舞台技術や施設維持管理に係る専門技術スタッフを配置し、施設の適正管理を実施している。
施設の設置目的に沿った事業の実施	クラシックやオペラ等多様な文化芸術振興事業の実施により、市民の文化芸術に触れる機会を創出しており、また貸館を中心に、市民自らが文化芸術活動を行う環境を提供している。またこれに関わるスタッフの人材育成にも取り組んでいる。
その他特筆すべき取組	国の補助金を活用し、検温機器や消毒液等新型コロナウイルス感染症対策の備品を整備し、来場者の確保に向け取組を進めている。

イ 市による状況分析

業種別のガイドラインを踏まえたフェニーチェ堺独自の新型コロナウイルス対策ガイドラインを定め、コロナ禍における施設の継続運営の指針とし、安全安心の取組を進めている。

(2) 利用者サービスの向上

ア 利用状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
指定管理者名	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団
利用者数(単位:人)		205,089	107,200	197,821	—
稼働率(単位:%)		50.3	58.5	71.9	—
利用者満足度(単位:%)		96.8	99.5	96.1	—

イ 取組状況

サービス向上、利用促進	施設利用に係る簡易パンフレット、企業向けパンフレットの作成など、ホールセールを推進するとともに、随時施設見学等に対応して施設の魅力を伝えるなど、リピーターの定着を図っている。
意見・苦情・要望等への対応	フェニーチェ堺ホームページからの問い合わせや「市民の声」等お客様への対応を随時行っている。公演アンケートからもコロナ禍における安全安心の取組が評価されている。
その他特筆すべき取組	「Dance Power 2021 in フェニーチェ堺」はイベントとしては中止となったが、2日間かけて劇場での記録動画を撮影。フェニーチェ堺スタッフが懸命に子どもたちの文化芸術活動を支援する模様が関西テレビの報道ランナーで特集され、コロナ禍におけるフェニーチェ堺の取組として紹介された。

ウ 市による状況分析

上記以外にも、フェニーチェ堺は「堺市文化芸術応援プロジェクト」に協力し、コロナ禍にあって文化芸術活動が制限される個人や団体への支援を市とともに行った。依然借り控えや公演入場者数への影響は続くと思われ、コロナ禍前の利用状況に戻るにはある程度期間が必要と思われる。また、利用者満足度は高水準を維持、指定管理者の取組が評価されていると考えられる。

2 管理運営状況

(3) 収支

ア 収支状況

(単位:円)

■ 指定管理業務

指定管理者名		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 (予算)
公益財団法人 堺市文化振興 財団		公益財団法人 堺市文化振興 財団	公益財団法人 堺市文化振興 財団	公益財団法人 堺市文化振興 財団	公益財団法人 堺市文化振興 財団	公益財団法人 堺市文化振興 財団
収入	指定管理料	182,108,421	765,588,821	481,855,148	485,046,797	535,800,000
	利用料金	0	29,595,305	46,101,605	95,023,169	111,864,000
	負担金	0	0	0	0	0
	その他	17,100	234,002,759	72,519,005	77,272,271	199,662,000
合 計		182,125,521	1,029,186,885	600,475,758	657,342,237	847,326,000
支出	人件費	92,514,911	157,754,058	146,457,601	157,320,016	163,500,000
	委託料	9,538,860	599,256,547	281,919,490	301,098,684	461,917,000
	総支出額に占める 委託料の割合	5.4%	61.7%	48.2%	47.3%	54.5%
	修繕費	0	3,935,059	819,730	1,120,624	4,800,000
	光熱水費	4,198,247	53,349,193	52,723,282	66,577,858	69,857,000
	その他	69,930,890	157,513,046	103,233,939	109,893,714	147,252,000
合 計		176,182,908	971,807,903	585,154,042	636,010,896	847,326,000
収支差額		5,942,613	57,378,982	15,321,716	21,331,341	0
(市への納付金の額)		2,971,307	40,529,674	7,660,858	10,665,671	—
(徴収委託の場合の徴収額)		—	—	—	—	—

■ 自主事業 (有)

(単位:円)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 (予算)
収 入	—	4,864,790	3,416,791	3,190,529	1,435,000
支 出	—	2,161,936	562,979	481,314	945,000
収支差額	—	2,702,854	2,853,812	2,709,215	490,000
(市への納付金の額)	—	—	—	—	—

イ 取組状況

経費の縮減、経理事務	・公演事業及び広報営業経費について、新型コロナウイルス感染症の影響により多くの公演で中止が相次いだため、堺市と指定管理者との協議により予算額と決算額の差額を返還した。また、貸館でも同様の影響によりキャンセルや仮控えが相次ぎ、利用料金や駐車場の収入は大きく悪化した。 ・指定管理料には市休館等の指示で還付した令和3年度の利用料金等相当分として市が支払った14,501,160円を含む。
------------	--

ウ 市による状況分析

利用料金収入は昨年に続き、年度当初の想定より大きく悪化した。コロナ対策消耗品等経費の国補助金獲得や経費の縮減等を実施したことから、収支差額はプラスとなった。

3 目標管理、総合評価

(1) 目標管理

ア 仕様書で定める目標の達成状況

■ 適正な管理運営の確保

指標	目標	実績
文化芸術振興事業実施回数	鑑賞18、創造・発表3、普及・育成18、諸室活用12、翁橋公園2	鑑賞30、創造・発表5、普及・育成24、諸室活用27、翁橋公園2

■ 利用者サービスの向上

指標	目標	実績
利用者数	478,000人	197,821人
施設稼働率(大ホール、小ホール、大スタジオ)	80%	68.4%
施設稼働率(その他諸室)	65%	76.6%
満足度	90%	96.1%

■ 収支

指標	目標	実績
利用料金及び入場料収入	330,000千円	131,239千円

イ 市による状況分析

コロナ禍による公演中止や緊急事態宣言等に伴う一部期間に臨時休館や時短営業の対応を行ったことなどから貸館稼働率が低下し、目標未達となった。

(2) 総合評価

目標の達成状況のほか、管理運営状況も含め、以下の評価基準により総合的に評価を行う。

	指定管理者	所管課
評価	B	B
評価の理由	令和2年に続き、年間通じてコロナ禍による催事の中止、延期が相次ぎ、稼働率は目標に届かず、利用料金収入も低調であった。その中でも国や大阪府、文化芸術関係団体が要請する必要な対策を随時更新しながら利用者に寄り添う対応を実施。ウィズコロナにおける利用方法を構築した。引き続き堺市の中核文化施設として取組を進める。	コロナ禍の市内の文化芸術活動が停滞する中、堺市と連携し、文化芸術活動応援事業への協力など、柔軟に対応し利用者に配慮した会館運営を常に意識している。また、小ホール落語公演において、初の有料オンライン配信も実施し、新たな取組にチャレンジを進めている。
今後の取組	今後も社会情勢に応じた「フェニーチェ堺新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を随時適切に改定しながら、多目的ホールの強みを生かし、利用者増への取組を進める。	貸館では、大阪府吹奏楽コンクール等大型催事を誘致するなど、ウィズコロナ時代における利用者増加への取組をさらに進めてほしい。

評価基準	A	仕様書で求める目標や水準を上回る管理運営がなされ、優良であるもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の管理運営がなされ、適正であるもの
	C	管理運営が仕様書で求める目標や水準を下回っており、努力が必要であるもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要であるもの